

MAGNEET VERF

■ 施工上の注意

- 開缶後は、よくかき混ぜて均一な状態にしてからご使用下さい。
- 塗装中、乾燥中ともに換気を良くしその後も塗料の臭いなくなるまで時々換気をして下さい。無泡スモールタイプの長毛が作業性に優れているようです。
- 塗装終了後、ローラー、刷毛などの用具は早めに洗って下さい。
- 新設の場合、被塗面の乾燥に特に注意して下さい。(含水率 10%以下、pH10 以下)

■ 使用上の注意

- 取扱後は、手洗いうがいを十分に行ってください。
- しっかりと蓋をし、一定の場所に貯蔵して下さい。保存上引火の心配はありませんが、極端な高温（60℃以上）や低温（5℃以下）での保管は避けて下さい。

※詳細な内容が必要な時は MSDS をご参照下さい。また、カタログ記載以外については、お問い合わせ下さい。

※本製品の内容については、予告なく変更する事があります。

■ アフターメンテナンス要領

マグネットペイントを未永くご使用頂けますよう、ご使用における注意事項ならびにメンテナンス方法について説明させていただきます。

注意事項：

マグネットペイントは、壁を傷つけずに簡単に掲示物をマグネットで貼り付けることが出来ます。従来の画びょう、粘着テープなどをご使用すると壁面を傷つけてしまいますので十分ご注意ください。尚、マグネットペイント施工面は、塗料による薄い鉄粉層で構成されています。スチール・鋼板面に比べると吸着力は劣ります。市販の磁力の強い強力マグネット（市販では強力と表記されております）を購入頂きますとスムーズにご使用頂けます。

メンテナンス方法：

マグネットペイントのトップコート（表層塗料）は、一般的に内装全般に使用されております塗料となりますので基本的に塗装仕上げの内装壁面同様、使用頻度により多少のキズ、汚れは付着いたしますが、以下のアフターメンテナンスにより環境維持可能となります。

※チョークボードペイント・ホワイトボードペイントのメンテナンス方法は、それぞれのメーカーの仕様に従ってください。

【対策 1】マグネットによる擦れ汚れのケース

トップコートを規定膜厚塗布していれば少々の擦れで剥れることはありません。通常仕様状況下（擦りつけ等）では、キズでは無くマグネット裏面の茶褐色の粉汚れが壁面に付着することがあります。固く絞った雑巾などで水拭きして頂ければ除去できます。その他、消しゴムなどで擦って頂いても除去可能です。汚れ防止方法といたしましては、マグネット裏面部分にセロテープなどを貼りガードすることによりマグネットの粉の汚れ防止となり、快適にご使用頂けます。

【対策 2】クレヨン、マジック等で直接壁面に書いてしまったケース

マグネットペイント及び一般の水性塗料は、書き消しの機能は有りません。

万が一書き込んでしまった場合は、使用したインクなど成分の違いはありますが、水拭きにて対応頂き、除去できない場合は、トップコート（補修材）で塗りつぶしてください。

【対策 3】キズがついてしまったケース

中塗りされているマグネットペイント（ダークグレー色）まで露出している小さな浅いキズの場合は、トップコートのみが削り落ちている状況ですので、対策 2 同様、部分塗装してください。

何かをぶつけてしまい大きなキズ（穴）がついた場合は、

1. ホームセンターなどで市販されています「パテ」にて凹部穴埋めを行います。
2. 既存面と平滑になるまで穴埋めしたうえで乾燥させます。
3. 乾燥後、研磨しトップコートを塗布してから完了

（※鉄粉層まで剥離した場合のメンテナンスにつき部分的に吸着力はなくなります）。

その他、使用方法・メンテナンスでご質問等ありましたらお問い合わせ下さい。

マグペイントジャパン株式会社

東京都江戸川区平井1-8-2 電話 03-3636-2500 FAX 03-3637-4105

輸入元 株式会社ニシムラ

E.mail:mpjp.007@gmail.com http://www.nsmrp.com

★ プラスワン



スケッチペイントを上塗りに使用するとホワイトボードが出来上がります。ホワイトボード用マーカーで書き込みが出来るようになります。

MAGNEET VERF

マグネットペイントは金属の粒子を含有した水性塗料で、磁石をひきつけます

塗装説明書

日本仕様

■ 標準塗装仕様

● モルタル・コンクリート・スレート・各種ボード

工程	商品名	塗回数	希釈率	塗装方法	標準使用量 (L/㎡/回)	塗装間隔 (20℃)
素地調整	ゴミ、油脂などの付着物をスクレーラー、ワイヤー、ブラシやサンドペーパーなどで除去、平滑にした後、ウエスで清拭する。 穴埋めが必要な場合には、パテ、フィラーなどを用いて行う。					
下塗り	使用する塗料の製造会社の仕様に従ってください。					
中塗り	MAGNEETVERF	2~4	無希釈	刷毛 ローラー	0.2L	4時間以上
上塗り	使用する塗料の製造会社の仕様に従ってください。					

● ビニールクロス面（撥水性ビニールクロスを除く）

工程	商品名	塗回数	希釈率	塗装方法	標準使用量 (L/㎡/回)	塗装間隔 (20℃)
素地調整	ゴミ、油脂などの付着物を除去した後、ウエスで清拭する。 ビニールクロスの剥れた箇所は必要により同種のビニールクロス及び専用の接着剤で補修する。					
下塗り	使用する塗料の製造会社の仕様に従ってください。					
中塗り	MAGNEETVERF	2~4	無希釈	刷毛 ローラー	0.2L	4時間以上
上塗り	使用する塗料の製造会社の仕様に従ってください。					

■ 塗布量の目安

- ① 0.4L / ㎡以上塗布（塗装回数目安：0.2L / ㎡塗布出来ると仮定して2回）
マグネットの吸着力は弱いですが、マグネットシートを貼ることは出来ます（メモ等をマグネットで貼り付けることは出来ません）。
- ② 0.6L / ㎡以上塗布（塗装回数目安：0.2L / ㎡塗布出来ると仮定して3回）
A4 サイズのコピー用紙をマグネットで7枚程度貼り付けることが出来ます。（※1）
- ③ 0.8L / ㎡以上塗布（塗装回数目安：0.2L / ㎡塗布出来ると仮定して4回）
推奨する塗布量です。塗布量を多くすることによって膜厚の薄い部位の底上げをすることが出来ます。A4 サイズのコピー用紙をマグネットで10枚程度貼り付けることが出来ます。（※1）
※1 弊社取扱スーパーマグネットを使用した場合の目安です。

塗布量は、塗装面積 × ①、②、③で計算できます。

【例】 塗装面積 10㎡ 塗布量 ③ 0.8L / ㎡ とすると $10 \times 0.8 = 8L$

【重要】ローラーは、メーカー及び種類によって、また、新品か再使用品かによっても塗料の含み（塗布量）が違ってきますので塗装回数を目安とする事は結構ですが、塗装回数で管理はしないで下さい。

■ 塗装要領 (日本仕様)

塗料準備

画像① 商品の特性上、鉄分が沈澱しています。十分攪拌して下さい。(小型攪拌機があるとより効率が上がります)塗装中も時々攪拌して下さい。

養生

養生紙テープは、塗装が終了しない場合でもその日のうちに一端、剥がして下さい。翌日になると塗料が固まってしまい養生紙テープをきれいに剥がす事が難しくなります。

養生例:養生紙テープをデザインに沿って貼り(以降、ベーステープと呼称)その少し内側に養生紙テープをずらして重ね貼りする(以降、捨て貼りテープと呼称)と翌日の養生作業がスムーズに行えます。

画像② 決められたデザインに沿ってベーステープを貼ります。(ワンポイント:幅の広いテープを推奨します。画像は24ミリ使用)

画像③ ベーステープより2ミリ程度内側に捨て貼りテープを重ね貼ります。(ワンポイント:ベースに使用したテープより幅の狭いテープを使用します。画像は18ミリ使用)

画像④ 養生テープの上に塗装したまま放置し固まってしまうと養生テープをきれいにはがす事が難しくなります。

画像⑤ 施工当日にベーステープの内側に貼った捨て貼りテープをはがし、翌日、ベーステープの内側に同じように貼り直します。

下地準備

画像⑥ 必ず下塗り(シーラー等)を塗装して吸い込みを止めて下さい。(下塗りを塗装しないと下地に水分を吸われ平滑に仕上がりません)

画像⑦ ビニルクロスの上に塗装する場合も密着強化の為、下塗りを塗装して下さい。

画像⑧ 凹凸のあるビニルクロスに塗装する場合、ベーステープの内側にコーキングをして塗料の漏れを止めます。

画像⑨ コーキング剤を塗布した右側と塗布していない左側では、塗料の漏れ方が明らかに違います。

塗装

マグネットペイントは、希釈せずそのまま塗装して下さい。ローラーは中毛ローラーをお奨めします。

ワンポイント:スモールローラー、レギュラーローラーの選択について

レギュラーローラーは、スモールローラーの約3倍の塗料を含むことが出来ます。その分スモールローラーより塗布面積を大きくすることが出来ますが、塗料を含んだ際の重さも約3倍となります。

塗装に不慣れな方は、スポンジローラーをご使用下さい。塗装する際は、しっかり脱泡してからご使用下さい。一度に塗料を厚塗りしても問題ありませんが、同じローラー模様になるように塗装して下さい。

ワンポイント:均一の模様≒ほぼ同じ膜厚ですのでマグネットの吸着力がほぼ同じになります。

画像⑩ 施工時、塗料に空気の巻き込みが有りピンホール(小さな穴)が発生してしまいます。

画像⑪・⑫ ローラーを数回、十字にしごくように塗装することにより脱泡し、かなりのピンホールの発生を防ぐ事が出来ます。

ワンポイント:塗装中にピンホールが現れたら塗料が乾燥する前に必ずローラーでしごきつして下さい。

塗装直後は、艶のある黒色状態です。艶が消えて色が薄くなれば塗り重ねが可能です。

ワンポイント:艶が消えれば水分がある程度抜け塗膜が動かなくなります。

画像⑬ ヘアードライヤー等で温風を送る事により、より早く塗り重ねが可能となります。

ワンポイント:艶のある状態でいきなり強い風を送ると塗膜にワレが生じる恐れがあります。入隅等は、塗料が溜り易いので控えめに塗装して下さい。

画像⑭ マグネットペイントの2回目の塗装以降マグネットで各部位の吸着力を確認しながら塗装して下さい。均一な吸着力の塗装面を作り易くなります。更に中毛ローラーで塗装直後(塗膜が乾燥する前)に短毛ローラーまたは、スポンジローラーで塗料を付けずに塗装面を転がす事により中毛ローラーで付いた凹凸模様が細くなり、より平滑な塗装面が得られます。(この作業によりマグネットとの接地面積が大きくなり吸着力が増します)

※スポンジローラーで塗装されている場合は、塗装面の凹凸が中毛ローラーに比べて細かいのでこの作業を省略出来ます。

画像⑮ ※マグネットペイントの塗膜上にビニルクロスを貼る場合やチョークボードペイント・スケッチペイント★参照(ドライイレースペイント)を塗装する場合は、コテ、ゴムベラ等で平滑に施工する方法も有効です。更に平滑な塗装面を作る場合は、粒度#240以上のペーパーで研磨して下さい。塗料は余らず事無く塗布量計算で算出した全量を使い切って下さい。算出した塗布量を使用しないとマグネットの吸着力が低下します。

標準施工は0.6L/㎡から0.8L/㎡塗布です。本塗装前にご使用予定のマグネットで最適な塗布量を確認後、塗装開始される事が最も良い手順ですが、どのようなマグネットをご使用するのか不明な場合は、0.8L/㎡塗布をお奨めします。

【重要】マグネットペイントの塗膜上にビニルクロスを貼る場合は、必ずマグネットの吸着力をテストして塗布量を決定してから塗装開始して下さい。

画像⑯ マグネットペイントを規定塗布量塗装するとかなりの膜厚となり(下地との間に段差を生じ)ます。

画像⑰ 特に養生テープとの境界部分は、鋭角で塗料が染まりづらい形状ですので研磨してなだらかにして下さい。

ワンポイント:下地との段差を小さくするために養生紙テープから1~2cm内側は、塗装回数(塗布量)を控える方法があります。

画像⑱ 上塗りを塗装する前に粒度240以上のペーパーで研磨し不陸を整えて下さい。

画像⑲ マグネットが目的の吸着力を発揮出来ている事を確認後、上塗り塗装の準備に移ります。

画像⑳ ワンポイント:数値で吸着力を管理する道具として ばね式秤 を販売しています。

ベーステープの内側に貼った捨て貼りテープを剥がして下さい。また、マグネットペイントの塗料飛沫で汚れた養生シートを貼り換えて下さい。

上塗り

マグネットの擦れ等で黒ずみが付く事がありますので防汚機能の付いた上塗り塗料をお薦め致します。また、艶も3分艶以下をご使用下さい。艶のある水性上塗り塗料は、完全硬化してもべたつき感が残る可能性があります。

ワンポイント:上塗り塗装前に下塗りを塗布すると下地への吸い込みが止まり上塗り塗装がスムーズに施工できます。

